



施設園芸（いちご、カンキツ、きゅうり）において、品目の枠を超えてIPMを実践！



天敵放飼の様子
(きゅうり)



現地研修会の様子
(きゅうり)



天敵の定着確認の様子
(いちご)



天敵放飼の様子(左)、フェロモン剤設置の様子(右)
(カンキツ)

1. 地域の特徴と取組の背景

- 阿南地域は、温暖多照な気候条件を活かした県内屈指の施設園芸地域であり、いちご、カンキツ、きゅうりの栽培が盛んである。
- 近年、各品目とも薬剤抵抗性を持つ難防除病害虫の発生による収量や品質への被害が大きく、産地として効果的な防除技術が喫緊の課題となっている。
- これまでも天敵を活用した防除技術の導入を試みてきたが、部分的な普及に留まっていることから、協議会を核として品目の枠を越え、地域や関係機関が一体となってグリーンな栽培体系への転換を推進している。

3. 取組の成果

- いちごにおいて、無処理と比較してアザミウマの発生を半分以下に抑えられた。
- カンキツ（みかん）において、長期間ハダニを低密度に抑えることができ、果実への被害も少なかった。
- きゅうりにおいて、アザミウマの発生や果実への被害を抑えられた。天敵の導入により、殺虫剤の使用回数が減少し、省力化に加え、殺虫剤の経費を約半分に抑えることができた。

2. 取組の概要

【環境にやさしい技術】

- いちご：アザミウマ、アブラムシ天敵及びハスモンヨトウ用フェロモン剤、アザミウマ対策の防草シート等を活用した総合的防除
- カンキツ：ハダニ天敵、ハスモンヨトウ用フェロモン剤、ハマキムシ用フェロモン剤の活用による総合的防除
- きゅうり：アザミウマ天敵及びハスモンヨトウ用フェロモン剤を活用した総合防除

【省力化に資する技術】

- IPMの実践による薬剤散布回数の削減

4. 今後の展望

- 令和4年度に作成した「グリーンな栽培体系導入マニュアル」を基に、講習会や現地巡回等において、地域への普及・定着を図っている。
- 天敵、フェロモンを導入するタイミングや天敵の導入コストに課題が残っていることから、先進地等との情報交換などを進め、より効率的なIPM導入法も検討し、技術の普及、定着に取り組む。

問い合わせ先

阿南市みどりの食料システム推進協議会（阿南農業支援センター TEL：0884-24-4182）